

トリア・CHEK-TV、広島テレビ=バンクーバー・CKVU-TV、東海テレビ=トロント・ベイトン放送、関西テレビ=ブリティッシュ・コロンビアTV。

オーケストラのど真中で聴く感じ 新しい立体音響「Qサウンド」

音のさまざまな要素が宙に舞って四方八方から迫り、まるでライブ・オーケストラのど真中で聴いている感じ……。しかも、普通のステレオやテレビでも、立体感あふれる音響が楽しめる。

これが、アルバータ州カルガリーのアーチャー・コミュニケーションズ (Archer Communications Inc.) が開発した「Qサウンド」による立体音響だ。立体音響は、すでにマルチスピーカーや、音響プロセッシングによるものなどが存在するが、同社によるとQサウンドは音響効果や音響イメ

ージだけでなく、応用性などの点で他のシステムよりはるかに優れているという。

すでに任天堂がビデオゲームの音響効果を高めるため340万ドルのライセンス契約(仮)を結んだほか、コカコーラ社はコーシヤルの音響をよくするために今年からQサウンドを使う契約を結んでいる。テレビ、レコード、映画、玩具、その他の商品と、Qサウンドの応用範囲は広い。

骨粗しょう症にフッ化ナトリウム トロント大学で悪化防止に成功

多くの女性(一般の男性も)は、高齢化すると骨がもろくなる骨粗しょう症にかかりやすい。更年期を迎えて、女性ホルモン・エストロゲンのレベルが下がり、骨組織のカルシウムが減るからだ。骨粗しょう症がひどくなると、ちょっと握っただけでも骨が折れることもある。

トロント大学のティモシー・マーレイとジョーン・ハリソンを中心とする医療研究陣は、過去4年間、フッ化ナトリウムを使って脊椎の骨質を元に戻し、骨粗しょう症の悪化を食い止める研究を続けてきた。その結果、錠剤にしたフッ化ナトリウムを摂取することによって、閉経した女性61人の脊椎が26.2%も強化された。とりわけ65歳以上の女性に最大の効果が見られたという。フッ化ナトリウムは、歯を強化し、虫歯を防止するために、練り歯磨きや飲料水に少量添加されている。トロント大学の研究陣は、それよりはるかに多い1日当たり平均44ミリグラムを患者に与えた。相手により摂取量を変えることによって、患者の8割に効果があったという。今後は効果が安定するか、あるいは元に戻るかを確認する作業に入るが、来年初めまでには長期的効果についてのデータが得られる見込み。

■「30万円/月で黄金の日々」定年後の快適ライフのすすめ 稲垣長映著 (小学館、1990年 定価1200円)

普通のサラリーマンが定年を2年後に控えたある日、第二の人生を趣味の戸外スポーツを夫婦で楽しみながら送るにはどうしたらよいか、ひとつ実行してみようと思いつく。バンクーバーを選ぶに至った経緯、永住権取得のハードルをいかに越えたか、現地のマンション選び、食費の詳しい調査などから始まり、移住後の快適生活の記述まで、日記や詳しいメモをもとに、具体的に紹介している。海外移住を考えている人に役立つと同時に、読み物としても面白い。

■「極北のおもいで」ノルミー・エコーミヤク作 岸上伸啓監修 大窪一志訳 (リポート、1990年、定価1339円)

「……私はだれでしょう。私はイヌック(人間)です。……すべてをおぼえています。陸に住む動物や鳥、魚、海に住む動物、こうした生き物すべての精霊を私知っていました。彼らのことをしゃべることもできました」どこまでも引用を続けたいほど、静かで不思議なイヌイト(イヌイトは

BOOKS



昔、他民族からエスキモーと呼ばれたが、彼ら自身、これを嫌い“人間たち”という意味のイヌイトが正式名称となっている)の物語をつづった絵本である。

エコーミヤクは32歳。耳の不自由な北ケベックのイヌイトで、祖父から習ったアプリケと刺しゅうを使い、素朴で清らかな絵を展開する。厳しい自然の中の生と死を泰然と受け入れた所に自ずから生まれ出た作品といえようか。頁をめくるとイヌイトの伝説、生活、生い立ちが現われる。色彩がまた、美しい。

■「侍女の物語」マーガレット・アトウッド著 斎藤英治訳 (新潮社、1990年、1800円)

長い間待たれていた、世界的に有名なカナダの女流作家アトウッドの作品の初邦訳。カナダやアメリカをはじめ、英語圏で大好評を得て、映画化もされた。

20世紀末の独裁神権政治国家ギレアデ。アメリカ合衆国とおぼしき国でクーデターによって生まれた姿なき政権のもとで、人々は思想や行動を完全に管理されている。ここでは核戦争や枯葉剤、エイズなどのせいで健常児の出生率が急減し、一部の女性が、子供を生む道具として収容されている。物語は、こうした女(「侍女」)の一人の体験を通じて展開する。

『侍女の物語』(The Handmaid's Tale)はジョージ・オーウェル『1984年』に続く終末的未來小説として高く評価され、カナダ総督賞、ロサンゼルス・タイムズ賞など数々の賞に輝いている。

アトウッドは、女性の疎外などをテーマに独特の文体で小説、シナリオ、児童文学、文芸批評などに活躍している。